

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 23 年 3 月 31 日（木）10:00～11:30
- 場 所 合同庁舎 4 号館 1214 特別会議室
- 出席者 相澤議員、本庶議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、青木議員、中鉢議員、
金澤議員、泉統括官、梶田審議官、吉川審議官、大石審議官
- 議事概要

1. 戦略推進費について

<鈴木参事官説明>

（特に意見等なし）

2. 最先端研究開発支援プログラム（30 課題）に係る東北太平洋沖地震による被害状況等につ いて

<川本参事官説明>

- 本庶議員 このプロジェクトは一応年限を切って法律的にその間は自由に使えるということにいたしておりますが、こういう不測の事態による遅れ等々によって、その期間を多少フレキシブルに、課題によっては今後の進捗状況を見ながら、例えば半年、1 年以内が常識的な線だと思いますけれども、そういう特別な措置を構ずることを検討するということが今後必要になるのではないかと思います。今すぐどれということではなくて、全部する必要はないと思いますが、今後の被害状況を確定し、それぞれの研究者から例えば要請があった場合には、総合科学技術会議としてはある程度そういう方向へ支援をするということを検討すべきではないかと思います。
- 今榮議員 実際にその被害を受けたところがどのぐらい早く回復するかというのはかなりケースバイケースで違うと思いますが、そういう場合に例えば代替というのはおかしいですけれども、ほかの施設で研究ができるかどうか、その辺の検討もあれば、実際に今後の決定には少し参考になるかと思います。
- 川本参事官 実際先生がおっしゃったように、代替の研究施設の活用あるいは研究手法の見直し、そういった可能性も検討を進めていきたいというような報告もいただいております。
- 奥村議員 次のステップで、まさに中心研究者の方が何をしたいのかと、そういう要望の聞き取りをする予定にしているのか。今回は被害状況の調査ということだとどめていると思うのですけれども、どういうふうに対応していくのか、計画があったら教えてください。
- 川本参事官 我々事務局としましては、今先生からご指摘ありましたように、これは被害の状況と

いうことでございますから、復旧に向けた対応については、これは場合によっては研究計画の見直しということもあるかと思いますが、そういったものについて研究支援機関を通じてこれから聴取をさせていただいて、それを整理して必要な対応を検討していきたいというふうに思っております。

○中鉢議員　今の議論のとおりだと思いますけれども、少し気になりますのは、今、被災の情報をまとめておられると思いますけれども、次に大事なものは、そういう被災情報と同時に、いつまでかかるかわかりませんが、手順の情報と云えばいいんでしょうか、これが大事だと思います。いつごろ、どのように、どうしていきますよと、こういう見通しをきちんと立てる、そしてだれが担当して、ここがとりまとめますという手順の情報をきちんと出すべきではないかと思います。先ほど来からの議論も含めて、いろいろな手順を、今榮先生、本庶先生がおっしゃったこと、奥村先生がおっしゃったことも、こういうふうに進めていきますよということだと思います。それは恐らく個別に時間のかかるもの、かからないものがあると思いますけれども、被災情報の詳細をまとめていくだけでは、研究者にとっては非常に不安なことだろうと思います。

それともう一つ。そういう情報のハブになるのはどこでしょうかという質問ですが、実際それはあるのでしょうか。

○川本参事官　ハブとしましてはやはりこの総合科学技術会議です。

○中鉢議員　この総合科学技術会議がこの復興というか地震の被害状況をまとめて全部指示を出す役割なのですか。

○相澤議員　いえ、そうではありません。そこまでは規定されていないわけですが、少なくともこの最先端研究開発支援プログラムは総合科学技術会議が総括して進めているところなので、このプログラムについては総合科学技術会議がハブである。ただ、それ以外の研究開発システムについては、各省がそれぞれの傘下については今進めているところであります。その全体のハブというのはまだできていないわけですが、各省が進めているところを総合科学技術会議が全体を把握するということはしていかなければいけないのではないかと私は思います。

○大竹参事官　今日はこのプログラムしか出ていませんが、いろいろ情報を集めているのですが、今中鉢先生おっしゃるように、ただ情報を集めるだけだったら忙しい人は協力してくれないので、我々が、何ができるかということをきちんと明示した上でないと情報は集まらないと思います。ただ集めるだけでなく、そこもあわせて考えますので、もうしばらくお時間ください。

○奥村議員　今の大竹参事官の発言と関係すると思うのですが、プログラム以外のところについては、例えば文部科学省なり関係府省が被害状況を恐らく集めると思います。多くはやはり予算絡みで情報を集めるという目的が主でしょうが、この貴重な経験を生かすには、やはり本来的に役に立ったこと、役に立たなかったこと、各被害を受けたところですね、これをあげていただくとその情報は今回幸いにも被害を受けなかった地域での研究機関あるいは研究者にとっても役に立つ情報なのではないか。そういったことも文部科学省とご検討いただければと思います。

○相澤議員　それでは、ただいまいただきましたご意見等を踏まえ、今後の進め方をさらに検討していただきたいと思います。

3. 分野別推進戦略総合PTの対応について

(会議中止に伴う事後対応の打合せであるため非公開)

(以 上)